

岩手県広告業協会 創立35周年 ～さらなる「飛躍」を目指して～

理事長あいさつ

会費で8代目の理事長に選任されました。当協会は平成元年4月広告文化の普及発展を通じて媒体各社と連携を図りつつ岩手県経済の活性化と県民生活者の快適な暮らしづくりに寄与する事を目的に創立され今年35周年を迎えました。爾来、事業活動は元より地域社会の課題にも積極的に取り組んで参りました。平成20年設立20周年の年は特別記念講演会の開催、また平泉世界文化遺産登録キャンペーンを支援するなど地域活性化に向けて展開しました。そして、平成23年3・11東日本大震災発災時「東日本大震災復興プロジェクト／みんなの力を。みんなに力を。」キャンペーンを早々に立案し岩手県広告協会と県内メディアと一体になり「広告というツール」を媒介にして企業や被災者をサポートする事業を展開しました。平成30年の節目の年には記念祝賀会、盛岡四高音楽部による記念コンサート、また社会貢献活動として子ども食堂を運営する「子どもの居場所ネットワークいわて」へ寄付金を贈呈致しました。そして、令和2年新型コロナウイルス感染症の影響で外出自粛など日常生活に我慢を強いられている岩手県民に向け、県内マスメディアの皆様のご協力のもと「座敷わらしは岩手の守護神です。」というテーマで共同プロジェクトを展開しました。そして令和5年コロナ禍を乗り越え制限のない社会経済活動が動き出していますがまだまだ課題が山積み、企業を取り巻く環境を変えています。このような状況下、私も岩手県広告業協会は、どんな時代でも時流に適応し広告の力を信じ、皆様と共に地域経済の発展に取り組んで参りたいと思います。より一層のご支援、ご協力を宜しくお願い致します。



岩手県広告業協会
理事長 羽川 久美

平素は当協会の事業活動に対してご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。
今年4月の総

就任あいさつ

べたところ、南部氏の家臣として甲州から奥州に来て、不束方城を築いたのが「福士氏」であり、その後、八戸藩士となったという説が有力のようです。
実は私にとって、福士はもともと私の姓ではありませんが、戸籍上の姓は異なります。結婚したときに仕事上でも改姓してしまうか、旧姓を使い続けるか考え、後者を選びました。利便性や継続性という点も大きいのですが、前職の新聞社での初任地が山形だったこともあり、東北との縁を感じられる姓、「福士」であり続けるのもよいかも、と思った次第です。
不思議な縁が繋がって、岩手にまいりました。どんな土地にも、そこにしかない魅力や財産、それを培ってきた歴史があります。生活スタイルや価値観は変わっていきませんが、時には「不変のもの」を見出し、次世代に託すことも大切だと思います。私たち地域に根差すメディアも、より互いの連携を密にして、そうした役割を果たしていきたいものです。
テレビ岩手は来年開局55周年を迎えます。日々城跡を眺めながら、お世話になっている皆さまとこの場所で、何をしたいのかと考えています。福士と申します。これからもよろしくお願いたします。



テレビ岩手
代表取締役社長
福士 千恵子氏

今年6月に株式会社テレビ岩手代表取締役社長に就任しました。
「はじめまして、福士と申します」。名刺を出してこうあいさつすると、時々「どちらのご出身ですか」と聞かれます。北東北には「福士」がたくさんいます。多い順に青森県、北海道、そして岩手県。明治時代に東京へ出てきた私の曾祖父も青森の出身でした。ですから、何となく「福士のルーツは青森」と思い込んできました。ところが、最近気になって調



岩手日報社
代表取締役社長
川村 公司氏

入社以来、30年以上も編集部門で歩んできた自分が広告の業界に足を踏み入れたのは2021年4月。まだコロナ禍のただ中にある経済状況に、数字を突きつけられる厳しさに「大丈夫だろうか」と不安しかなかった日々を思い起こします。言ってみれば日刊紙のニュース報道は瞬発力、「点」の色彩が濃いですが、それをいかにマネタイズに導くか。「点」を「線」につなぐアイデアと人脈がものをいうのが広告の世界。今まさに実感しております。

そういう意味におけば、あらゆるところに多くの好機は転がっていると思いつつも、世の中そう甘くありません。今年、各地でイベントは復活したものの、トンネルからまだ抜けられそうにありません。一方でクライアント側の戦略も変化しています。そもそもコロナ禍というトンネルを抜けるか否かという発想は筋違いで、時代はすでに別な線路を走っている。思考を切り替えねばと言いつつも聞かせながら、もがいております。
先日、ある雑誌の特集でWBC前日本代表監督の栗山英樹さんが次のようなことを話していました。まず自分を育てる言葉。「基本、後輩の方が優秀である」(人類は絶えず進化する)。次に人を育てる言葉。「批判は感謝して受ける」(言われるうちが華)。新聞業界はオールドメディアと揶揄されることも多いですが、旧弊の慣習からの脱却、過渡期にあります。
いつの時代も課題と向き合うのは世の常です。今となつては業界が潤った昭和の時代すら、当時の先輩たちは「大変だ」が口癖でした。広告は社会との接点。市場はどこにあるのか、何を求めているのか。もがき苦しみながら、皆さんと難局を乗り越えていきたいと思っています。

事業報告



岩手広告協会・岩手県広告業協会合同ゴルフ大会 岩手広告協会会長川村公司氏が優勝！

岩手県広告業協会は9月20日、岩手広告協会と共催で第32回親睦ゴルフ大会を安比高原ゴルフクラブ、チャンピオンコースで開き、両協会から31名が参加、熱戦を繰り広げました。

大会結果は、岩手広告協会の川村公司会長（岩手日報社代表取締役社長）がグロス86、ネット71・6で優勝。

上位は次の通り（グロス、ネットの順）。準優勝 甘竹明久氏（岩手読売広告社代表取締役社長）（82、72・4）

3位 石川亮氏（東北映像代表取締役社長）（92、72・8）

ベストグロスは、76で回った谷藤和弘氏（総合企画新和代表取締役）



第54回岩手広告賞表彰式



7月25日、盛岡グランドホテルにて第54回岩手広告賞の表彰式が行われました。グラフィックの部の岩手広告賞、知事賞は「城下盛岡町名由来2023カレンダー」（旧盛岡藩士桑田）。

新聞広告の部の岩手広告賞「120年事業120年目の、はじめまして（藤勇醸造）」ほか、6部門の表彰と同時に、岩手広告美術展の表彰も行われました。

4年ぶりの開催 納涼ビアパーティー

納涼ビアパーティー

8月24日（木）ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにて、コロナ前までは夏の恒例行事でありました「納涼ビアパーティー」を、加盟各社31社、130名の参加をいただき、2019年以来4年ぶりに盛大に開催させていただきました。久しぶりに一堂に会してのビアパーティーは業界内の交流を図り、親睦を深める場として、また猛暑が続いた今年の夏、喉を潤す場として皆様には楽しんでいただけたのではないかと思います。

中でも、業界の未来を担う若手社員の皆さんによるアピールステージは、天津木村さんのユニークで小気味よい進行も相まって、会場を盛り上げていただきました。登壇いただいた14名の各社若手の皆様に感謝申し上げます。

当協会では、年明け1月22日（月）に「令和6年新年交賀会」の開催を予定しております。華々しい新年のスタートとなるよう趣向を凝らして、多くの皆様のご参加をお待ちしておりますので、どうぞご期待ください。



進行役の天津木村さんと若手社員の皆さん



新人紹介



IBC岩手放送
営業局テレビ営業部 鎌田 征希
入社年度：2022年

2022年9月に入社いたしました鎌田征希です。滝沢市生まれ、盛岡商業高校サッカー部出身です。岩手県広告業協会様のお役に立てるよう頑張ります。



IBC岩手放送
営業局テレビ営業部 在家 桃香
入社年度：2022年

2022年度入社、今年2年目の在家桃香と申します。多くの人との新しい出会いを大切に営業に勤しんで参ります！よろしくお願いいたします！



岩手朝日テレビ
営業局営業部 茂木 和大
入社年度：2019年

4年間報道制作局に所属し、主にニュース原稿や番組制作に携わっていました。営業職は今年度が初めてでしたので、報道制作局で培った経験を活かしながら頑張りたいと思います。



岩手朝日テレビ
営業局営業部 津志田 翔子
入社年度：2020年

入社から営業部に配属され、4年目となりました。この4年間で学んだことを活かしながら、社会人としても営業としても、引き続き精進して参ります。

新人紹介



岩手朝日テレビ
営業局営業部 小笠原 幸介
入社年度：2021年

地元金融機関で11年間勤務し、畑違いの業界に入社致しました。前職でも主に外回りをしておりましたので、経験を活かしながら広告業界を盛り上げていきたいです。



岩手日報広告社
営業部 高橋 生祈
入社年度：2021年

広告業界未経験で入社し、経験も浅いですが少しでも先輩方に追いつけるよう尽力して参りますので今後とも宜しくお願い致します。



テレビ岩手
営業局営業部 佐藤 飛翔
入社年度：2021年

飛翔と書いてつばさと読みます。1998年寅年生まれです。「虎に翼」の如く、代理店の皆様にお力添えできますよう励んで参ります。



東広社
営業部 佐々木 耕陽
入社年度：2020年

東広社の佐々木です。手の届く範囲のことにしっかり確実に取り組みながら、年相応にできることを増やし成長していけるよう、頑張りたいと思います。



東北博報堂
盛岡支社ビジネスデザイン部 山澤 美菜子
入社年度：2022年

東京出身なので知らないことだらけですが、そこを逆にとり岩手ならではの魅力を伝えていきたいと思っています。



東日本朝日広告社
営業局3部 阿部 太一
入社年度：2020年

地元の横浜から岩手に来て4年目を迎えます。食、酒もおいしく、周りの人にも大変恵まれています。岩手の未来をもっと明るくできるように頑張ります！



岩手広告社
営業部 マネージャー 後藤 勇太
入社年度：2020年

中途入社の為、新人ですが現在41歳です。広告業に携わって19年になります。これまでの経験を活かし、精進して参ります。



岩手日報社
広告事業局広告部 細越 ちひろ
入社年度：2023年

入社して約半年。先輩方に支えられ、徐々に仕事や環境に慣れてきました。一人前にはまだまだ程遠いですが、雨垂れ石を穿つ気持ちで精進します。



テレビ岩手
営業局営業部 岩渕 将士
入社年度：2022年

岩渕将士と申します。昨年11月に中途入社いたしました。営業という仕事の新鮮さ、仕事をする楽しさをテレビ岩手に入社して感じる事が多いです。



東広社
営業部 中村 保奈美
入社年度：2023年

まだまだ慣れないことが多いですが、これから様々な経験を積み、安心して仕事を任せていただけるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。



ナチュラルコム
プランナー 宮澤 貴明
入社年度：2022年

アメリカンフットボールで培ったタックルを武器にお客様にも良い提案で突っ込みます。この岩手を広告で盛り上げていきたいです。



東日本朝日広告社
営業局3部 主濱 廉
入社年度：2021年

地元である岩手の地で、広告を通して多くのお客様に貢献できるよう日々努力して参ります。皆様、今後とも何卒よろしくお願い致します。

お知らせ

【社員研修セミナー】

今年度も会員社社員のスキルアップを目的に研修セミナーを開催いたします。昨年度に続き実際に講師を招き、皆様にご参集いただいてのリアルセミナーとして開催いたします。



「広告と幸福の本質を掘り下げる。
～人を幸せにする広告人である方法～」

講演者 福永 琢磨 氏

(株)電通ビジネストラנסフォーメーション・クリエイティブ・センター事業シナリオ&ストーリーデザイン部電通 Team SDGs SDGsコンサルタントソーシャル・デザイン・エンジン メンバー)

■日時：令和5年 11月 16日(木)
14:30～16:30(終了予定)

■場所：プラザおでって 3階
「おでってホール」

新年交賀会

■ 日程／令和6年1月22日(月) ■ 会場／ホテルメトロポリタン盛岡・NEWウイング

就任あいさつ



IBC開発センター
代表取締役社長
武田 敏哉氏

今年6月22日に就任しました。IBCに入社したのは42年前。社会人スタートは本社営業で、当時はバブル真只中。営業先の窓口は創業社長というところもまだあって、「飲む回数」「ゴルフの回数」「出稿金額」の方程式が残っている時代。風邪で寝込んだとき以外は毎晩、夜の街に繰り出しました。仕事のイロハは専ら広告会社の先輩方から教わりました。いい人達ばかりでした（今もそうだと思いますが）。感謝しております。その後、報道・事業・人事等を転々とし、今回久々の広告営業となります。

広告会社の先輩の話をひとつ。東京支社から戻った7年前、業協の役員をされていた二人の先輩と、お茶飲みをしていました。F先輩「武ちゃんよ、大腸検査したことあるか」私「やったことない。俺、健康だから」F先輩「やってみろ」私「はい」。1か月後の検査で医師曰く「大腸がんです」私「がーん」。幸い初期段階で見つかったため腹腔鏡で手術。お陰様で今も元気に生きております。またまた感謝でした。

わたくしの趣味はお酒とゴルフと山仕事です。軽トラにチェーンソーと刈払機を積み込み、クマから逃げつつ間伐作業を続けております。山仕事に興味ある方、一緒に山に入りませんか。IBC開発センターはステレオパックや音楽テープの販売会社として昭和44年に設立され、昭和56年に広告代理業に参入しました。現在は他に生命保険業務も行っていて、沿岸駐在も含めて総勢8名の会社です。クライアントの要望に応えながら、岩手県民の幸せに寄与する企業を目指し社員一同頑張つて参る所存です。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



アドオフィスコミュニ
代表取締役社長
四戸 一也氏

今年4月に代表取締役役に就任しました。アドオフィスコミュニは昭和56年に創業し、今年で43年目、私が3代目になります。私はこの会社に入つてまだ15年目ですが、職歴としては、最初はタウン誌のデスクに在籍し、その後、岩手SPRセンターという代理店に転職、残業に明け暮れた10年が過ぎた頃、会社を閉めることが決まり、グループ会社である某印刷会社に引き取られ、同社の社員となりました。そしてその後ご縁をいただきアドオフィスコミュニに入社しましたので、かれこれ30年以

上、同じような仕事をしています。

かつての同僚や先輩方は各方面に散らばっており、今では名のあるライターやカメラマン、または独立した方、もちろん代理店同業者や協力会社にいる方も多数おります。私一人の力など微々たるものですが、そういった周りの方々のお力を借りながら、何とか今まで生き延びてこれたと思っています。

今、岩手県では少子化が大きな問題になっていますが、私は数年前から子育て応援に関するプロジェクトに関わっており、毎月、県内出生数の最新情報を追っていますが、その減少幅を見ると愕然とします。この大きな流れはもう止められないのかもしれませんが、我々としては、いかに働きやすい環境を作っていくか、いかに未来に希望を示せるかが問われていると思います。働く環境を整えるためには、弊社にとっては後進の育成も急務です。

日々のルーティーンに追われる毎日ですが、いつまでも現場に立ち、「近々、打ち合わせできますか?」と言われたら、「今からいかがですか?」と答え続けることを目標に日々精進して参ります。皆様どうぞよろしく願ひいたします。



岩手日報アド・プランチ
代表取締役社長
西館 政美氏

今年6月に、岩手日報広告社と兼務ということで就任しました。当社の営業案内に、新聞折り込み広告、総合広告、新聞販売、生保・損保代理店、と記載してあります。岩手日報社に入社以来、その大半を広告・事業に籍を置いてきました。一昨年6月に岩手日報広告社に移籍し同じ道を歩んできました。ですから、総合広告については馴染みがありますが、その他の種目については、ただ今勉強中というところです。特に新聞広告業協会の皆さんには大変お世話になっていることに感謝を申し上げます。

私は岩手町の農家の長男です。時間を見ては本業(?)に従事しています。田畑にいると季節の移り変わりを肌で感じます。しかし、今年の夏はそんな悠長なことを言っていられませんでした。立派に育ってくれたキャベツは出荷直前に表面の一部が日焼けで変色。結局、一個も収穫することなくトラクターで粉砕して土に戻しました。トマト、キュウリ、春菊も連日の酷暑の前に本来の収穫ができませんでした。自身の体調不良も重なり、地球沸騰化時代を正に肌で感じさせられた夏でした。

話を戻しますが、6月に、岩手日報社総合メディア局の小山嘉朗局長が常務取締役として一緒に就任しました。同社編集局に長く勤務し新聞制作に精通し、新しい分野にも果敢に取り組んでくれました。冷静に物事を判断できる一方、人間味にあふれた仲間です。取り巻く環境の厳しい中、元氣な社員に囲まれ不慣れな仕事に二人で悪戦苦闘しています。併せて、よろしく願ひいたします。



オリンピア企画
代表取締役社長
藤原 銀司氏

6月より株式会社オリンピア企画の代表取締役社長に就任いたしました。岩手県広告業協会の皆様にはめんこいテレビで営業担当の時代から、長くお世話になっております。この度の就任につきましては、何かご縁を感じています。私が20代の時、八幡平のスキー場・ホテルの広報担当としてオリンピア企画と出会い、その後はテレビ局の営業、生活情報誌、映像プロダクションなど、様々な仕事を通じて共に働

き、経験を積み重ねてまいりました。今やこの関係も40年以上に及びます。初めての広告会社での仕事に戸惑いも感じますが、素晴らしいチームとともに挑戦してまいります。

近年はウィズコロナの中、行動規制が緩和され人々の動きが活発になる中、イベントの再開などにより地元企業の広告が少しずつ活性化しています。また、ニューヨークタイムズが今年行くべき世界の52都市の中で盛岡市が選出され、日本国内だけでなく海外からの交流人口が増加しており、業界のみならず地域社会への好影響が期待されます。一方で現在の広告業界・メディア業界は、新たなテクノロジーとプラットフォームの台頭により、さらなる創造力と柔軟性が求められています。

オリンピア企画は変化を受け入れ、成長し続けるために、行動指針である信頼、創造、挑戦の精神と組織力を大切に、お客様のニーズに最良のソリューションを提供してまいります。オリンピック企画は今年、創設から55周年を迎えます。次の100年に向けて、経営基盤、成長基盤の更なる強化を図り、広告業界そして地域社会の発展に微力ながら貢献していく所存です。今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。